



ポーランド名作映画ビデオ鑑賞 2024

# 『イレブン・ミニッツ』

原題：11 MINUTES

2015年 | 81分 | ポーランド・アイルランド

北海道ポーランド文化協会 主催

入場無料

2024. **3/9** (土)  
18:30~



札幌エルプラザ 4F 中研修室 (北8西3)

ポーランドの巨匠  
イエジー・スコリモフスキ監督

カンヌ、ベネチア、ベルリン三大国際映画主要賞を制覇  
第73回(2016)ベネチア国際映画祭・生涯功労金獅子賞  
キネマ旬報2016年ベストテン第8位  
2012年から日本で例年開催の「ポーランド映画祭」の  
監修をつとめ、舞台挨拶に訪れる親日家

参加方法 (予約推奨) ☎ 080-4071-0956 (安藤) ✉ [hokkaidopolandca@gmail.com](mailto:hokkaidopolandca@gmail.com)

お話：坂尻昌平氏の解説付き。毎回好評の交流会にも引き続きご参加ください！

(さかじり・まさひら) 映画研究者。早稲田大学大学院文学研究科に学ぶ。共編著『ジャック・タチ』(エクスクア  
イアマガジンジャパン、1999)、『ジャック・タチの映画的宇宙』(同、2003)、『世界映画大事典』(日本図書セ  
ンター、2008)、『淡島千景~女優というプリズム』(青弓社、2009)、『渋谷実~巨匠にして異端』(水声社、2020)

## 映画レビュー『イレブン・ミニッツ』

ポーランドの巨匠イエジー・スコリモフスキ監督が、  
実際に見た悪夢から着想を得て、その悪夢の場面が結  
末となるように物語を組み立て、大都会に住む人々の  
午後5時からの11分間に起こる様々なドラマを複数の  
視点から構成した群像劇である。

高層ビルすれすれに飛ぶ飛行機や「11」という不吉  
な数字、様々な事象が不安を掻き立てる。

女好きの映画監督と若き女優のやりとりは昨今の  
芸能界における諸問題を先取りしている。嫉妬深いそ  
の女優の夫、麻薬を売る間男のバイク便の男は、彼女  
の夫が帰宅したため慌てて逃げ出す。彼の父親で刑務  
所を出たばかりのホットドッグ屋とその過去を知る  
女、強盗を失敗した少年、犬を連れたパンク娘といっ  
たいわくありげな人物に、ホテルでポルノを見ている  
登山家のカップル、妊婦を乗せた救命女医、日曜画家  
など脈絡のない人物が次々と出てくる。多種多様な手  
法を駆使した映像や都市空間にあふれる音などによっ  
て、人々の悲哀に満ちた人生の陰影を表現し、あり  
ふれた日常が、わずか11分に変貌する様を描き出す。

これらのバラバラな出来事が、午後5時11分に発  
生する思いもよらぬ事件に収斂していく。

考えてみると、人間社会も量子力学的に見えてくる。  
即ち、個々の素粒子は粒子として振舞うが、大多数と  
なると波として振舞う。電子は原子核の周りに雲のよ  
うに偶然的に存在するが、電子軌道と呼ばれる部分に  
集中している。「集中度の高い偶然」という形容矛盾の  
ような存在でもある。人間は愚かだが、反面、愛しい  
存在でもある。

劇中、空に何か黒い点が浮かんでいるのではないかと  
想像させる会話、画家が描いている絵の片隅に飛び  
散った黒い点、エンディングの場面で右上にポツンと  
現れる黒い点。これらは何を表しているのだろうか。  
神の警告なのか、その解釈は人により、千差万別であ  
ろう。ポーランドを代表するクシシュトフ・キエシロ  
フスキ監督は、一見無関係に見える出来事が実は深い  
所で繋がっていることを描き続けたが、本作にも同様  
な視点を感じられる。

以上のようなことに思いを馳せながら、本作を鑑賞  
して頂ければと思う。

(池田光良 いけだ・みつよし)